

紹介. レーザーによる腫瘍焼灼術の後に気管にシリコンステントを留置. 呼吸困難は改善し術後5日目に退院. 生検結果は腺様嚢胞癌で, 現在放射線療法を行っている.

それぞれの症例に応じてステントを選択することで症状改善やその後の治療につなげることができる. ステントの種類や特徴について, 若干の文献的考察を交え報告する.

## 25. 壁外非連続性に間膜浸潤を認めた壁深達度SM・脈管侵襲陰性の直腸神経内分泌腫瘍G1の1例

外科

伏見 卓郎	信久 徹治
岡野 寛	猿渡 和也
岡田 尚大	坂本 修一
國府島 健	河合 毅
遠藤 芳克	渡邊 貴紀
松本 祐介	甲斐 恭平

症例は50代の男性. 定期検診で下部直腸に6 mm大の粘膜下腫瘍を指摘されEMRを施行した. 固有筋層に及ばない粘膜下層(SM)に類円形核をもつ細胞群が索状に増生しており, 神経内分泌腫瘍と診断した. 壁深達度SM, 脈管侵襲陰性, G1であったが, 断端陽性の可能性があり, 追加切除となった. 原発部位に腫瘍残存はなかったが, 直腸間膜内にリンパ節構造を伴わない壁外非連続性の腫瘍浸潤巣を認めた. 腫瘍径10 mm以下, 壁深達度SM, 脈管侵襲陰性, G1の直腸神経内分泌腫瘍の転移・浸潤を伴う報告はまれである. また直腸神経内分泌腫瘍で, リンパ節構造を伴わない壁外非連続性癌進展病巣の所見の報告はない. 文献的考察を含めて報告する.